

町長	副町長	課長	担当課長	主幹	担当	合議

別記様式第4号

会議等結果報告書			
会議区分	会議	文書番号	上富子育て 第97号
		決裁期日	平成26年5月8日
名称	【平成26年度第1回】上富良野町子ども・子育て会議		
日時	平成26年5月7日(水) 18:00~20:00		
場所	上富良野町保健福祉総合センター 2階研修室		
出席者	子ども・子育て会議委員13人(別紙名簿のとおり) 保健福祉課長 石田、子ども・子育て担当課長 吉岡 健康推進班主幹 杉原、子どもセンター施設長 吉田 子育て支援班 安井、吉河		
内容	<p>1 開会 石田課長 委員の交代及び担当職員の異動について説明(委員名簿配付) 鈴木委員及び職員自己紹介</p> <p>2 議事 委員長進行</p> <p>【委員長】 子ども・子育て支援事業計画二一ス調査結果からの課題整理について 事務局より関連資料の説明 アンケート調査結果報告書 製本された報告書(内容については前回配布資料と同様) アンケート調査対象世帯の状況 就学前児童アンケート対象世帯の年齢構成と回答者の年齢の比較 委員意見のとおり若い世代の回答率が低いと同時に、40代の回答が低い 子育てに関し、精神的、経済的な不安や負担が少ないと推察 アンケート調査クロス集計結果 児童の年齢別、回答者の年齢別、校区別のクロス集計結果。児童年齢、回答者 年齢、校区の無回答があり全体の結果報告と数値に相違あり。項目別のサンプル 数が少なく、傾向が見えにくい結果となった。 アンケート調査自由記述のまとめ 自由記述意見を項目ごとにまとめたもの 就学前児童の実態調査の推移 例年実施している就学前児童の調査結果</p>		

【委員長】 資料の説明に対する質問、意見を求める。

北村委員： アンケート結果がその後、計画にどう反映していくのか。

【委員長】 この後の議題と関連するので、引き続き事務局より資料説明

量の見込みの算出基礎資料

ニーズ調査の結果、推計児童数、家庭類型から、単純に国のワークシートにより算出した量の見込み。平成26年度の実数との比較。

計画の構成イメージ

計画書に記載する事項

実際計画に盛り込める内容は、数値的なものや事業を実施するかしないかなど限られた内容となるが、利用者にとっては利用しやすさや質の問題などが重要になってくると思うので、付帯意見などの形で計画に反映させたいと考えている。

次世代育成行動計画の目標と現状

次世代育成行動計画の目標数値と現状の比較

各事業の数値目標はほぼ達成しているが、目標設定している休日保育及び病児病後児保育については、施設実施の課題が多く、ファミリーサポートセンター事業で対応している。

【委員長】 必要な事業の見込み量について

北村委員： 1号認定、2号認定、3号認定の見込み量の家庭類型別の内訳はどのように算出されているのか。

事務局： 家庭類型別の内訳はワークシートの中には出ているが、今は資料を持ち合わせていない。家庭類型ごとに1号、2号、3号の量を算出。

今日の会議では、データをもとに委員が共通理解すること、国の基準による見込み量が町の現状に見合った量であるかどうか意見交換、いただきたい。

【委員長】 資料 「量の見込み」の数値について、意見を求める。

教育・保育の見込み量について、3号認定0・1・2歳の量が全体の6割ほどになっている。

事務局： 現状の0・1・2歳の保育所利用率は25%以下。0歳の見込み量は非常に大きな数が出ている。

【委員長】 現状の20%台から60%台の延びる見込みはあるか。0歳については、生後6か月程度からの入所となると対象児童数自体が少ないと考えられる。

事務局： 1・2歳の入所多くなっているが、育児休業の普及もあり0歳児がここまで延びることは考えにくい。乳児期の成長に適した環境と親が働くために必要な事業が必ずしも一致しないところもあると考えられる。

成田委員： 国の施策は乳児期から保育施設で預かる方向であるが、育児休業、社会保険料免除など社会保障の充実も重要。現状では年度当初から3人の0歳児が入所することはあまりない。以前は3か月から預かっていたこともある。

事務局： 0歳児の入所は年度の途中で少しずつ増えていく状況。保護者も産まれたばかりの状態では先の見通しがしにくく、子どもの成長を見ながら入所を考える状況ではないかと思う。

【委員長】 生後6か月程度からの保育が一般的であるが、早い時期の需要はあるか。

成田委員： 中には、親の養育力に課題があり保育所の利用が必要な場合もある。

事務局： 乳児期については、育児負担が大きくて入所を考えるケース、逆に乳児期は自分で育てたいと考えるケースなど個人差があると感じる。
保育所で預かる事業が必要なのか、親の養育支援が必要なのか。

【委員長】 保護者の子育てに対する価値観が違ってきている。

社会参加と子育てに必要な事業を親が自己選択できる環境が必要。

国が対応する労働環境整備、社会保障制度が必要であるが、町の事業計画の範囲で町がどこまでできるか。

事務局： 事業を必要としている人にどれだけ必要な事業を提供できるかという計画になる。

【委員長】 地域型保育について町の具体的な考えはあるか。

事務局： へき地保育所など認可外保育施設が対象になるが、現状では該当する事業はない。町では過去にへき地保育所を廃止してきた経過があり、新たに該当事業を開始することは考えにくい。量的には現状の施設で確保できる。

地域型保育は、町が認可することになるので、必要な基準は定めるが、計画に施設設置を明記することは想定していない。

【委員長】 教育保育の必要量を確保するための施設数は現状で充足している。

他の意見を求める。

北村委員：「働きたい、自分の時間を持ちたい」という保護者は多いが、0・1・2歳の保育料は非常に高いために、あきらめる人も多い。保育料軽減など経済的支援が必要。

事務局： 保育料は国の基準を配正に合わせ見直す予定。経済的支援については医療費も含めた検討が必要と考えている。経済的支援は町の財政の問題。財政的に可能であればできるが、限られた予算で何を優先するかを選択する必要がある。

【委員長】 地域子ども子育て支援事業の見込み量について

寺岡委員： 病児病後児預かりの量についてはこのように大きな数値が必要とは考えられないが、働く保護者の安心のためには欠かせない事業である。

【委員長】 病児病後児保育事業の実施方法についてはどうか。施設での実施検討など。

寺岡委員： 医療施設が理想であるとは思いますが、現実には大きな課題があり、利用実績から、毎日施設で開設する必要があるかという疑問もある。ファミサポ事業で対応する中で、看護師の派遣など専門性の高い対応ができればと考える。現行の事業でより専門性を高める方向で考えるのが現実的。

【委員長】 時間外保育事業について意見を求める。

事務局： 調査では延長保育よりも放課後クラブの時間延長の要望が多かった。

【委員長】 ショートステイ事業について意見を求める。

寺岡委員：ひとり親家庭の保護者入院のため相談があった。結果的に児童相談所の一時的保護を利用したが、子どもの負担が大きい。地域で対応できることが望ましい。

事務局：ショートステイの方法としては、富良野地域では国の子寮への委託

【委員長】 見込み量について協議してきたが、全体を通して意見はないか。
特になければ、皆さんの感想、意見等いただきたい。

- ・広瀬委員： 専業主婦なので子どもを預ける機会はあまりないが、みんなが安心して子育てできる環境になればいいと思う。
- ・菅野委員： 働きたいと思っても働く場所がないので、女性が働くための事業が整っても活用する機会があるのか。子育て事業が充実して希望の仕事ができるのかという疑問を感じる。
- ・菊也委員： 事業としてはある程度満たされていると思うが、自由記述の意見の細かな要望どこまで取り組めるのか、充実できる計画だといいたいと思う。
- ・北村委員： すべては子どものためにといいところだと思ふ。より良い計画となるよう勉強してゆきたい。
- ・森井委員： 保育の必要性は仕事との両立という意識が大きかった。頻度は低いかもしれないが緊急時の対策も必要だと改めて勉強になった。
- ・谷口委員： 子どものためとはいっても働くお母さんのための施策と感じるが、町内に育児休業や社会保障が整備された職場がどれだけあるのか疑問。
これから子どもを持つと考えている人たちの意見も聞けると良かったのではないかと思ふ。
- ・増田委員： 見込み量について、現状と相違する部分もあるが新制度に向けた数値と受け止める。次世代育成支援行動計画策定時にはなかった事業が現在実施され、中でもファミサポ事業が大きな役割を担っていることを認識。
休日保育、病児病後児保育については、保育所では結果的に実現できなかったが、ファミサポで親のサポートと子どもの安全が担保されている。少ないニーズをとるのか多くのニーズをとるのか難しいところであるが、子ども目線で必要な事業計画を作ることが良い計画となる。
- ・鈴木委員： 地域性、家庭環境など、どこに焦点を当ててゆけばいいのかなと考へながら皆さんの意見を聴いていた。
- ・成田委員： この会議が無駄にならないよう良い施策が実現できることが願ひ。
- ・寺岡委員： 子どものためにといいところは全く同感である。と同時に保護者が苦しくなるとはいえないと思ふ。親を支えることが子どもを支えることにつながる。「親のサポート＝子ども目線でない」ということではなく、親が安心安定して子育てできることが、子どものためになると感じている。
- ・高木委員： 特に意見はないが、いつも勉強させてもらっている。
- ・野崎委員： 金銭的な支援と体制的な支援、大きく2つある。金銭的な面では、予算の有無ではなく、町の柱を明確にするべき。保育所民営化で効率化した部分を町でどう充足するか考へる必要がある。ファミサポに頼っている部分が多い。財政的なことでは、上富良野町は過疎でないため優遇されないため不利な部分もある。

【委員長】 参加者の皆さんからご意見をいただき、長時間にわたりありがとうございました。事務局から何かありますか。

事務局： 次回は、事業計画の素案を示したうえで、会議を開催したい。計画素案は6月中旬ころまでには作成したいと考えている。

【委員長】 本日の会議は以上で終了します。